

日本風景街道だより

2014年秋 Vol. 30

日本風景街道大学 ご縁の国島根校 参加報告

11月7日、8日の2日間にわたり、NPO 法人日本風景街道コミュニティ主催の日本風景街道大学ご縁の国島根校が、島根大学松江キャンパスにて開催されました。今回の風景街道大学では、「日本風景街道」が地域の思いと誇りを長く持ち続けられる制度となるよう、現状の課題やその解決策を話し合う場として開催されました。

1日目の概要

(1) 全体講義「島根学」

1日目の最初は島根大学で開講されている教養科目「島根学」の1講座として、「島根の風景を活かした地域創生」というテーマで全体講義が行われました。

最初にNPO法人日本風景街道コミュニティ代表理事 石田東生氏から、「日本風景街道」の活動、地域の再活性化、地域創造について」という演題で、人口減少、高齢化、東京への一極集中といった日本の課題について、「みち」の持つ連携の力を活かすための風景街道的施策が必要ではないかとの発表がありました。

続いて「島根における日本風景街道の取り組みと地域創生についての事例発表」として、『人間文化の原風景』湖水街道推進会議座長 三代隆司氏、「風待ち海道」風待ち海道協議会事務局長 野辺一寛氏及び「銀山街道・陰陽結ぶ銀の道」銀山街道沿線市町連携協議会会長 塚原隆昭氏から、各ルートでの風景街道の取り組みについての報告がありました。

この講義には、日本風景街道関係者の他、300名を超える学生や一般の方々も参加されました。



石田代表理事による全体講義



会場の様子

(2) 車座会議

全体講義に続いて、「日本風景街道」の活動を継続させる仕組みづくり」というテーマで車座会議が行われました。サブテーマとして「日本風景街道」と地域の連携について、「広報活動との連携でブランドカアップへ」及び「回遊性の向上に向けた取り組みについて」の3テーマで議論が行われました。

島根大学教育学部教授 作野広和氏を座長に、4名の方からの話題提供があり、翌日のワークショップにもつながる、①ソフトとハード、攻めと守りのまちづくりのための息の長い取り組み、②物語性の必要性、風景街道とは何を利用者に約束するものなのか、③点の取り組みと面の取り組み、地域の取り組みとの結びつきの必要性などが議論されました。



話題提供者による取り組み報告

話題提供者	概要
NPO法人日本風景街道コミュニティ 理事 田中 孝治	日本風景街道の活動を継続させる仕組みづくりとして、静岡県で取り組んでいる他の地域と連携し特産品を販売する仕組み「地縁店」についての紹介
株式会社チームふらっと 代表取締役 晴野 まゆみ	情報を発信する側の立場からのまちづくりに関する取り組みとして、阿蘇地域の情報が書かれたフリーペーパーや、外国人向けの情報としての英語でのドライブルート案内をする広報誌の紹介
天領江津本町麓街道 事務局長 村川 立美	石州赤瓦と歴史を活かしたまちづくり。修景の取り組みやイベント開催などの紹介
国土交通省中国地方整備局 道路部長 野田 勝	中国地方整備局での日本風景街道と夢街道ルネサンスという2つの制度を活用した地域づくりについての紹介

(3) 全体まとめ

1日目の最後には、全体のまとめとして、国土交通省道路局環境安全課長 池田豊人から、「住んでよし、訪れてよしのまちづくり」のため、攻め(観光客向け)のまちづくりと守り(住民向け)のまちづくりや、「人を呼ぶなら、まず自分が行く」という地元の人もたくさん訪れる拠点づくり、さらにはその拠点での地元の方と来訪者との交流等が必要とのコメントが、また、NPO法人日本風景街道コミュニティ理事 吉武哲信氏からは、風景街道の取り組みを通じたいろいろな人との連携の必要性や、民間企業にどのようにその企業の特色を生かしてもらいながら活動をしていくかといったコメントが、それぞれなされました。

2日目の概要

(1) ワークショップ

2日目午前中は、3テーマに分かれてのワークショップが開催されました。

テーマ	ファシリテーター	主な議論・結論
① 日本風景街道のブランド力向上に向けて	NPO法人 日本風景街道コミュニティ 理事 白井 純子	・道の駅との連携 ・風景街道ロゴマークの活用 ・ブランドマネジメント ・風景街道相互の差別化
② サイクリングで楽しむ日本風景街道	NPO法人 日本風景街道コミュニティ 理事 原文宏	・風景街道が目指すべきサイクルツーリズムの形 ・風景街道が目指すべきサイクルツーリズムへの課題
③ 日本風景街道の活動を次世代へつなぐ	山口大学理工学部研究科 准教授 鈴木春菜	・一人ではなく、家族・子供連れでも参加できる ・ゆるやかな活動、あえてミッションを与えない ・低いハードルでの継続性 ・コーディネートしているが、それを感じさせないリーダー

(2) とりまとめ

2日間のとりまとめとして、石田代表理事より、今回の風景街道大学について、①風景街道大学の社会的認知度は向上した、②風景街道の目標・目的の再考も必要な時期かもしれない、③多様な主体との連携・協働、外からの支援が必要、④各課題へのみちのコミュニティシンクタンクからの提言の実施、⑤風景街道大学での継続的な議論の実施、との総括がありました。

(3) エクスカーション

2日目午後は、「出雲大社周辺散策」と「島根半島サイクリング」の2コースに分かれ、エクスカーション(体験型の見学会)が行われました。



出雲大社周辺散策



島根半島サイクリング

国土交通省道路局環境安全課道路環境調査室 細村 誠

シリーズ：各地域の風景街道の取り組み

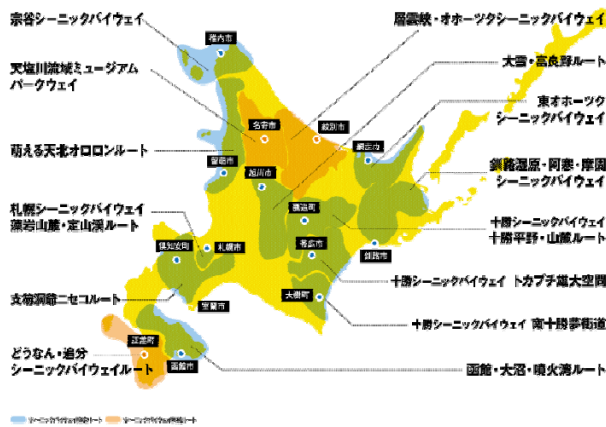
シーニックバイウェイ北海道 支笏洞爺ニセコルート

ルート名：支笏洞爺ニセコルート

1. ルートの概要

シーニックバイウェイ北海道 支笏洞爺ニセコルート(以後 支笏洞爺ニセコルート)は、北海道の中央部に位置し日本一の透明度を誇る支笏湖や洞爺湖、秀峰名高い羊蹄山を有する支笏洞爺国立公園とニセコ連峰を有するニセコ積丹小樽固定公園の2つの国立・国定公園に指定されているほか、今も噴煙を上げる有珠山、昭和新山と洞爺湖を含む地域が世界ジオパークに認定されています。このように、当地域は、国立・国定公園の緑深い自然と湖畔の美しい風景など北海道らしい雄大な景観と、悠久の地球の営みを感じられることから、ルートテーマを「美しい湖と秀峰 火山に出逢えるルート」としています。

支笏洞爺ニセコルートは、国道5号を含む国道6路線・道道9路線、関係自治体は17市町村から構成され、その面積は、約 4,400k m²と、山梨県と同等で北海道らしい雄大で広大なエリア構成となっています。ルートの距離も長く景観観光資源や現在の観光形態、地域の活動性などから、支笏湖畔及び千歳・恵庭を中心とする「ウェルカム北海道エリア」、洞爺湖や有珠山を中心とする「洞爺湖エリア」、羊蹄山周辺を中心とする「ニセコ羊蹄エリア」の3つのエリアを構成し、エリア毎の特色・特徴を活かした活動及び運営を行っています。また、これら、エリアが連携し、支笏洞爺ニセコルートとしての活動及び運営を行っております。



シーニックバイウェイ北海道 ルート図



支笏洞爺ニセコルート図(面積: 4,416k m²)

2. 活動の概要

支笏洞爺ニセコルートでは、シーニックバイウェイ北海道の3つの柱である、「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」を軸に、エリア及びルートで連携し、活動・取組を展開しています。ここでは、ルート連携の取組例をご紹介します。

・地域の邪魔ものを宝に〜タカラモノ☆プロジェクト〜

「支笏湖や洞爺湖で駆除されている ウチダザリガニを食べられないか？」という何気ない一言から始まったこのプロジェクト。その後、色々な議論や試行錯誤を経ていくうちにどんどん形を変えながら最終的に落ち着いたのが捨てられているものやこれまで見向きもされなかったものに“光”をあてて『地域の宝物』として再活用していこうという取り組みです。このプロジェクトには、単なる「体験」や「交流」にとどまらずにこれまで捨てられていたモノや見向きもされなかったモノに『光』をあて、“新たな付加価値”をつけようという思いが込められています。

平成23年度から継続的に活動を展開しており、支笏湖のホッチャレヒメマスと洞爺湖のリングの剪定枝のチップで炙って作った燻製と道端に自生するスベリヒユにひと手間加え、オリジナルトッピングとした『一枚のピザ』など試行メニュー作成や、道端の野草レシピなどを研究してきました。現在では、道路沿線に自生し、邪魔ものとなるイタドリを活用したパンや、長いもの収穫時に根についているムカゴを活用した料理の提供が、ルート内のホテルや飲食施設において徐々に始まっています。この取組は、流通のシステムにのらない小さな産地の隠れた食材を訪れた方々に味わっていただくことで食の文化や伝統的な郷土料理を見直し、地元の食の文化と味を“伝え”“広め”“楽しむ”ことにつながっています。また、食材のみならず、小学校へ昔の遊び(イタドリを使ったチャンバラ、笛づくりなど)を出前授業として行い地域の文化(遊び)を継承する取組にも波及しています。将来的には、この取組をベースに支笏洞爺ニセコルート内の資源を循環的に利活用し、沿道景観の維持につなげるような活動として進めていきたいと考えています。タカラモノプロジェクトは、地域の特徴をうまくアピールしつつ、地域資源の商品化に着目してビジネスに繋げた点や継続的に展開をするなかで内容の充実と成長が図られたことが評価され、「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2013」の最優秀賞を受賞しました。



タカラモノプロジェクトにより試作したオリジナルピザ



ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2013授賞式

・冬の夜を灯りの道で繋ぐ〜シーニックナイト

支笏洞爺ニセコルートをキャンドルの灯りでつなぐ“シーニックナイト”は、ニセコ羊蹄エリアで始まった、北海道の長く厳しい冬を楽しむイベントです。当初は、同日、同時刻に一斉にキャンドルを灯していましたが、開始から10年以上を経過し、回を重ねるごとに、参加団体数の増加、地域への広がりを見せ、現在は、1月下旬から2月下旬までの約2ヶ月間、ルートの各地で、思い思いにキャンドルを点灯し、人が集まる場所等において、たくさんのキャンドルが暖かく灯されます。観光客や地域住民など、実施団体以外の多くの参加者が関わるほか、各地域では様々な関連イベントも生まれ、新たな取り組みの足がかりとなっています。また、サポーター制度として個人が気軽に参加できる仕組みと、協賛を募るなど民間企業との連携した取り組みを行うことで、持続的な活動として展開しています。



シーニックナイト 2014 ポスター



ウェルカム北海道エリアの様子



洞爺湖エリアの様子



ニセコ羊蹄エリアの様子

・SNSの活用

地域の魅力や日々の様子等を情報発信することで、支笏洞爺ニセコルートのファンを増やし、実際に現地へ訪れてもらうきっかけづくりを目的として、SNS(Facebook)を活用した情報受発信も2012年12月より開始しました。情報発信の容易さに加えて、閲覧者とのコミュニケーションが図れることや発信した情報の拡散が早いこともあって、徐々にファンの数も増加し、2014年9月現在のファン数は「422件」となっています。最近では、各地域に暮らす14名の管理人のもと、地域の魅力を伝える情報に加えて、道路の通行止め情報等も発信することで、閲覧者にとって有益な情報提供も発信するなど、その用途は多岐にわたっています。今後も引き続き、道内外の観光客やネットユーザーとのコミュニケーションを積極的に図っていく予定です。



SNSを活用した道路情報の発信例



支笏洞爺ニセコルートSNS(Facebook)ページ(一部)

このほかにも、支笏洞爺ルートでは北海道の空の玄関口 新千歳空港周辺を花で彩りおもてなしの心を表す「千歳ウェルカム花ロード」、洞爺湖・支笏湖周辺での453(ヨゴサン)活動など清掃活動や、不要な看板の撤去など様々な取組を行っております。



千歳ウェルカム花ロード(千歳市)



不要看板の撤去(壮瞥町)

3. おわりに

支笏洞爺ニセコルートは、ルート指定から10年を経過しこれまで行ってきた活動が実を結び、原点とも言える“美しい景観づくり”に加えて、地域間連携による商品化等の効果も生まれてきました。また、今年度は新たに、道の駅等との連携や近郊ルートとの共同事業も開始したところです。これからも、支笏洞爺ニセコルートの様々な人・団体・企業と連携し、楽しく和やかに活動・取組を行い、「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」を進めていきます。

支笏洞爺ニセコルート 事務局長(NPO 法人 有珠山周辺地域ジオパーク友の会) 三松 靖志

シリーズ：社会資本整備総合交付金等の活用事例

市民参加型道路空間の利活用による市街地活性化

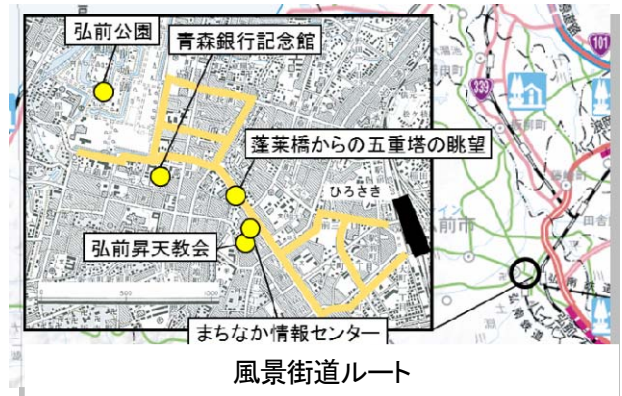
ルート名：弘前まちなか散策街道（青森県弘前市）

1. 概要

弘前まちなか散策街道は、弘前市中心市街地活性化基本計画において指定した中心市街地約 230ha の中で設定されており、当市の玄関口であるJR弘前駅から観光名所弘前公園の追手門及び東門までの間を徒歩ルートとして登録されています。

指定された中心市街地は当市の成り立ちの原点であり、築城 400 年を越える弘前城を有する弘前公園が、街の中心部に位置し、かつ多面的な機能を持つことに着目し、歴史的資源の更なる保全と周辺施設の魅力化を進め、都市観光の振興と市民活動の場としてこれまでも増して積極的な活用を図ることを目的として設定しています。

道路が活用されることで、全国的に社会問題となっている中心市街地の空洞化を克服する手段となることに着目し、中心市街地に街道ルートを設定し、弘前まちなか散策街道として日本風景街道に登録しました。中心市街地における様々な地域資源の眺望や景観を取り込んだ散策ルート(約 5.4km)を設定しています。



弘前公園



青森銀行記念館



まちかど広場

2. 活動

弘前市では中心市街地の活性化を図るために道路や周辺の都市公園を含めた道路空間を交流空間とらえています。弘前まちなか散策街道やその周辺においても様々な交流事業やイベントが開催されています。毎年8月1日～7日に開催される弘前ねぶたまつりは有名ですが、7月には市内県立高校の「弘高ねぶた」や幼稚園の「養生ねぶた」の運行があり、双方とも60年以上の歴史があります。

最近の活動としては、2012年より弘前商工会議所が「ひろさきりんごハロウィン」を開催しており、本年は1,000人を越える参加者がハロウィンパレードに参加し、商店街内の県道を皆で闊歩しました。

また、隣接する歩行者専用道路「えきどてプロムナード」では7月から10月の日曜日に「弘前朝市」が開催されました。この朝市は弘前まちなか散策街道のパートナーシップである弘前市中心市街地活性化協議会が民間合同会社と協働し、本年度の新規事業として実施し、朝6時から9時まで開催されました。日曜日の朝に新鮮な野菜やお魚を求める市民の台所となって好評を博しております。弘前まちなか散策街道は市民の交流の場として活用されていることが特徴のひとつです。



ひろさきりんごハロウィン



弘前ねぶたまつり

弘前朝市

3. 景観改善のための取り組み

景観改善区間は、JR弘前駅と日本有数の桜の名所である弘前公園とを連絡する区間に位置し、平成22年に国の認定を受けた「弘前市歴史的風致維持向上計画」の重点区域内でもあります。また、当該地区は弘前ねぶたまつりの運行メインコースであり、沿線には重要文化財に指定されている青森銀行記念館などの歴史的建造物も立ち並んでいる地域でもあります。

このため、周辺地域を含め青森県と弘前市が一体となり、無電柱化事業および歩道融雪事業の組み合わせにより往来する人々の回遊性と景観の向上を図る事業を進めています。

この取り組みには、社会資本総合交付金を活用しており、都市景観に配慮しながら商店街の振興を支援するとともに、災害に強い都市づくりも図っております。



【県道弘前岳鱒ヶ沢線 整備中工区】



【県道弘前鱒ヶ沢線 整備済み工区】

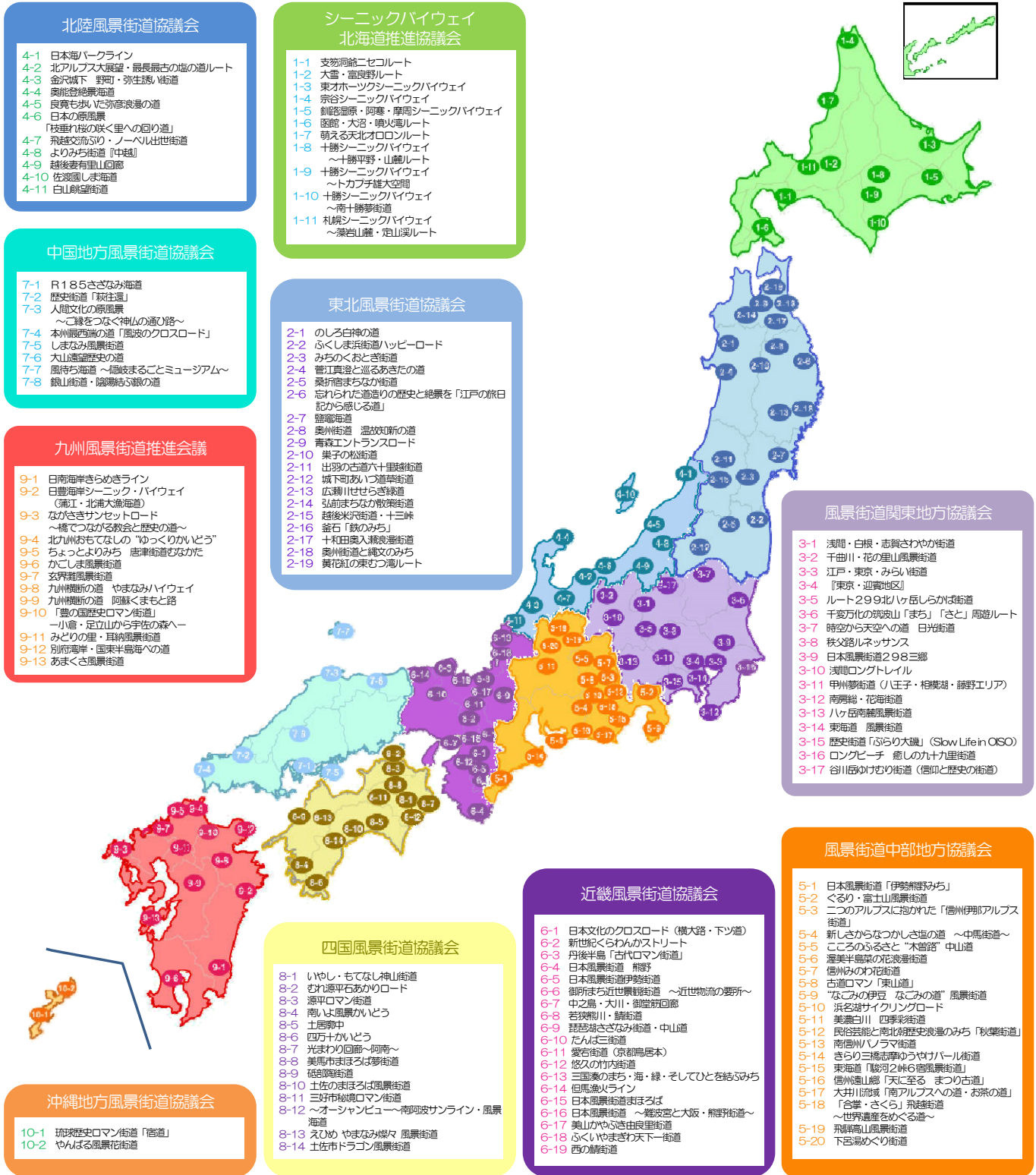
4. さいごに

今後も引き続き無電柱化の推進や、整備された道路空間を活用した地域活性化の取り組みを継続し、弘前のまちなかをゆっくり堪能していただけるような地域の魅力を高めていきたいと考えております。

日本風景街道は、現在、全国で 134 ルートが登録されています(平成 26 年 10 月末現在)

登録されている各風景街道の概要は、

日本風景街道のウェブサイト(<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/>)、
もしくは各風景街道地方協議会ホームページで閲覧することができます。



風景街道地方協議会及び連絡窓口はこちらへ

風景街道の活動を積極的に支援するために、各風景街道地方協議会に連絡窓口を設置しております。
日本風景街道に関するご相談等がございましたら、風景街道地方協議会の連絡窓口までご連絡下さい。

◆風景街道地方協議会の連絡窓口一覧

担当部署	担当者氏名	電話番号
シーニックバイウェイ北海道推進協議会 (北海道開発局 建設部 道路計画課 内)	畑山 朗	011-709-2311(代表) (内線 5845)
東北風景街道協議会 (東北地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	増澤 亨	022-225-2171(代表) (内線 4256)
風景街道関東地方協議会 (関東地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	石浜 康賢	048-601-3151(代表) (内線 4252)
北陸 風景街道協議会 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課 内)	杉 浩行	025-280-8880(代表) (内線 4213)
風景街道中部地方協議会 (中部地方整備局 道路部 計画調整課 内)	稲垣 光正	052-953-8171 (内線 4312)
近畿風景街道協議会 (近畿地方整備局 道路部 地域道路課 内)	南條 耕平	06-6942-1141(代表) (内線 4612)
中国地方風景街道協議会 (中国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	糸原 保	082-221-9231(代表) (内線 4613)
四国風景街道協議会 (四国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	黒口 貴弘	087-851-8061(代表) (内線 4612)
九州風景街道推進会議 (九州地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	松元 勝美	092-471-6331(代表) (内線 4252)
沖縄地方風景街道協議会 (沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 内)	大城 照彦	098-866-1914 (内線 4353)

【ご意見をお寄せください】

日本風景街道だよりは、地域の皆様へ様々な情報を提供することを目的に年4回程度発行する予定に
しています。掲載内容などご意見・ご感想がございましたら、下記までお気軽にお寄せください。

日本風景街道だより

発行：国土交通省道路局環境安全課道路環境調査室
東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL: 03-5253-8111(代表)(内線 38223) FAX: 03-5253-1622

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>